

経営比較分析表（令和3年度決算）

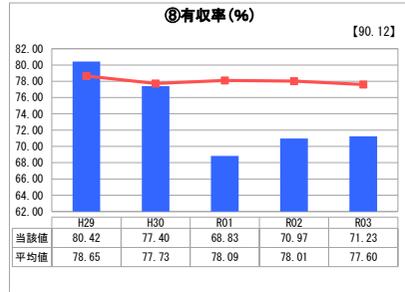
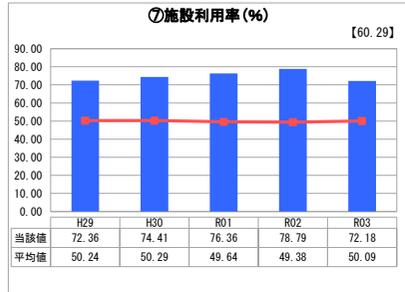
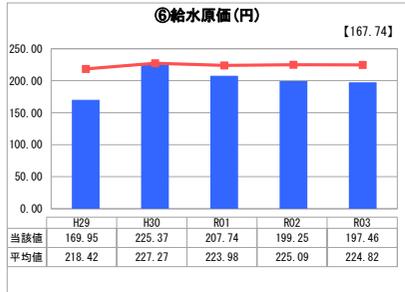
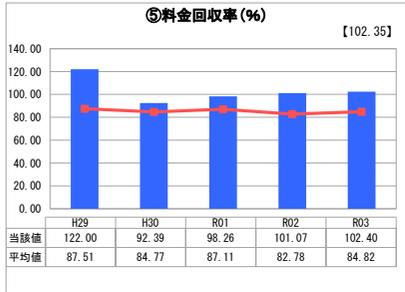
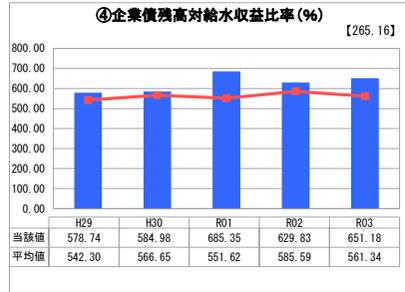
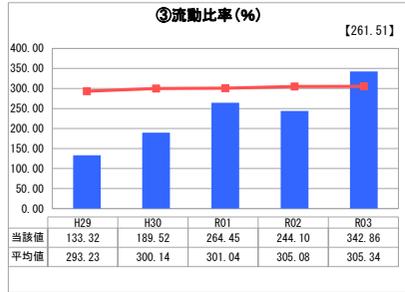
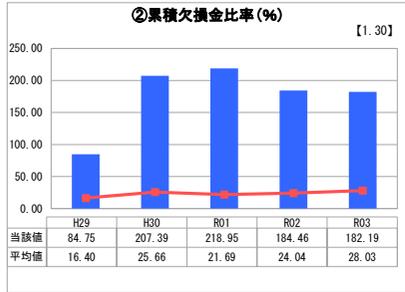
岩手県 大槌町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客単料金(円)	
-	73.32	77.49	3.476	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,158	200.42	55.67
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,574	17.20	498.49

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

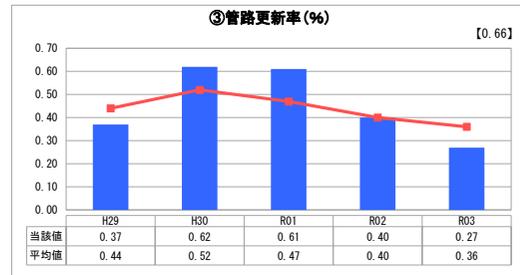
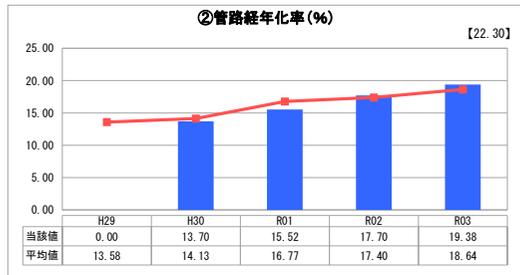
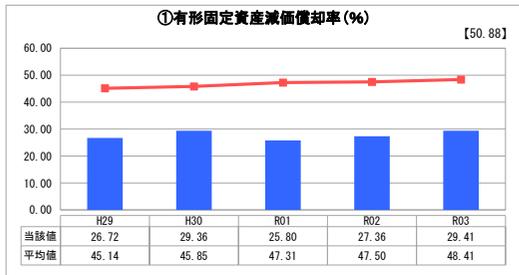
1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率については、特殊要因のため一時的に好転しているものの、近い将来人口減少による給水収益の減少が予想される。
- ②累積欠損金は東日本大震災に伴う固定資産の除却によるもの等で平均値との乖離が大きく今後の課題である。
- ③流動比率については平均を上回り、改善されている。
- ④企業債残高対給水収益比率は昨年度と比べ増加となった。今後は給水収益の低下により、さらなる増加が予想される。
- ⑤料金回収率については、100%超過しており、適正な状態にある。
- ⑥給水原価は平均値を下回っており、適正な費用水準にある。
- ⑦施設利用率については高い水準で利用されており、適正な施設規模である。
- ⑧有収率は配水管の切り替えや漏水等により無収水量が多く平均値以下の状態にある。今後は漏水箇所の特定等により有収率が増加するよう取り組む。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は平均値より低く、復興事業により、新しい固定資産が増加したことを示している。
- ②管路経年化率は概ね平均値の水準であるが、将来的には事業費の平準化を図り、計画的かつ効率的な更新に取り組む必要がある。
- ③管路更新率は平均値より低い水準にあり、今後の管路更新に伴う財源確保が課題である。

2. 老朽化の状況



全体総括

今後人口減少による給水収益の悪化が予想されるが、安心・安全な飲料水を提供するため、適正で計画的な施設・管路の更新を目指す。